第2決算審査特別委員会（第2日目）

R2.9.10（木）10：00～

第一委員会室

開 会 9：54

委員長 おはようございます。ただいまから第2決算審査特別委員会を開会いたします。

委員動静報告

委員長 ただいまの出席委員数は8名であります。
これより本日の会議を開きます。

認定第2号 令和元年度滝川市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

委員長 認定第2号 令和元年度滝川市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について審査を行います。

これより説明を省略し、質疑に入ります。質疑ございますか。

水 口 それでは、私から1件質疑をさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症につきまして、北海道の場合は2月の下旬より非常事態宣言を発出しておりますけれども、令和元年度の決算額などにどのような影響があったかについてお伺いをいたします。

大橋課長補佐 まず、影響が考えられるのは、国保税収入、医療費、特定健診の3点です。国保税収入につきましては、通常期の納期限が終わっており、影響は少なかったと思われませんが、2月末から3月末の出納閉鎖までの期間においては、新型コロナウイルス感染症の影響による減収などによって市税が払えないなどの相談は数件ありました。医療費につきましては、平成31年3月から令和2年2月診療分が令和元年度の対象で、受診控えが増加した3月以降が含まれていないため、令和元年度決算としては大きな影響はなかったと考えております。しかしながら、令和2年3月診療分から6月診療分までの医療費を前年診療分と比較しますと、合計で約2,500万円ほど医療費が減少している状況です。特定健診につきましては、市からの受診勧奨を控えたこと、医療機関で特定健診を休止したこと、3月に入ってから受診控えの影響により、2月、3月の2か月間は前年と比較して半減しており、120人ほど減少しているような状況です。

委員長 ほかに質疑ございますか。

東 元 国保の260ページ、特定健診、今のご答弁の中に一部ありましたけれども、不用額が400万円ほど出ております。多分、受診者がコロナの関係で減ったのではないかと思いますけれども、当初の見込数と受診者数、それからコロナ禍においてどういうふうに受診者数を増加させるか、対策などを考えているのであればお願いいたします。

大橋課長補佐 令和元年度の見込数としましては、データヘルス計画の目標であります41パーセント、約2,421人を見込んでおりましたが、受診者数は8月末現在の速報値で2,307人、受診率は39.1パーセントで、前年比プラス2パーセントの増となっております。受診者数を増加させる対策としましては、電話や訪問、ナッジ理論を活用したはがきによる勧奨や医師会、薬剤師会などの協力を得てチラシ配布によるPR、医療機関からの健診データ提供事業、5年間特定健診を受診されていない方への肺がん検診無料キャンペーンなどに取り組んでおります。水口委員からの質疑でもお答えしましたが、新型コロナウイルスの影響で2月から

3月、この2か月につきましては前年と比較して半減しているような状況でございます。あくまで仮定の話ではございますが、新型コロナウイルスの影響がなければ2パーセント程度の受診率の増加が見込まれ、データヘルス計画で平成31年度の目標であった41パーセントを達成できたと考えております。

委員長
山本

ほかに質疑ございますか。

244、245ページに記述がある特別対策事業費の中の収納率向上特別対策事業に要した経費1,019万7,574円の主な支出先の項目とやられた業務内容についてお教えいただきたいと思っております。

大橋課長補佐

主な支出項目ですが、報酬547万2,784円は、嘱託職員2名と嘱託事務職員の分でございます。賃金72万8,330円は、臨時職員1名分です。消耗品費59万2,880円は、税の口座振替キャンペーン用ののぼり、コピートナー、納税通知書に同封するパンフレットなどによるものです。手数料77万407円は、コンビニ収納、口座振替に係る手数料です。使用料及び賃借料60万6,000円は、嘱託職員の車両借り上げ料によるものです。業務内容としましては、徴収に係る嘱託や臨時職員に係る費用の確保、口座振替キャンペーンや税の周知、コンビニ収納や口座振替、職員の知識向上に係る研修費用など、国保税の収納率を上げるために取り組んでいるものとなります。なお、道繰入金におきまして7割程度の歳入がある状況でございます。

委員長

以上で通告されております質疑は全て終了いたしましたので、質疑の留保はなしと確認してよろしいですか。

(異議なしの声あり)

委員長

そのように確認いたします。

以上で認定第2号の質疑を終結いたします。

認定第5号 令和元年度滝川市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について

委員長

続いて、認定第5号 令和元年度滝川市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について審査を行います。

これより説明を省略し、質疑に入ります。質疑ございますか。

水口

先ほどと同じような質疑になるのですが、1件よろしくお願いいいたします。金額の決算の動きはそれほど大きくないですが、同じように新型コロナウイルス感染症につきまして決算額などにどのような影響があったのかをお伺いいたします。

塩尻係長

新型コロナウイルス感染症についての影響を及ぼすものとして考えられるのは、保険料収入、医療費、後期健診の3点です。保険料につきましては、現年度分、滞納繰越分合計収納率が対前年比0.05パーセント増の99.97パーセントだったため、影響はありませんでした。医療費につきましては、国民健康保険と同様、平成31年3月診療から令和2年2月診療が令和元年度の決算対象となっておりますので、受診控えが増加しました3月診療分が含まれておりませんので、今年度の決算につきましては大きな影響はなかったと考えております。後期健診につきましては、受診控えや一部の病院で後期健診を休止したことが影響しまして、受診を予定していた方が取りやめたこと、例年実施している年度末の個別電話受診勧奨を行えなかったことから、全体で前年比0.23パーセント減となりました。

委員長

ほかに質疑ございますか。

山 本 370、371ページに記載をされております保険基盤安定負担金1億6,399万8,973円の金額が支出されていますけれども、この負担の根拠とどのような法令の下で負担をしているのか、説明をお願いいたします。

塩尻係長 保険基盤安定負担金の算出根拠としましては、高齢者の医療の確保に関する法律第99条に基づき、北海道後期高齢者医療広域連合において算出しております。根拠としましては、昨年10月20日までに明らかになった被保険者に係る保険料の総額のうち、低所得者の均等割額を軽減した合計額1億6,346万9,723円と、被用者保険だった被保険者の均等割軽減額52万9,250円を合計した額となっております。保険基盤安定負担金は前段の均等割軽減額を補填するためのもので、同法により北海道が4分の3、滝川市が4分の1財源負担するルールとなっております。近年の状況としましては、被保険者数の増加に伴いまして、保険基盤安定負担金も増加傾向にあります。

委員長 以上で通告されております質疑は全て終了いたしましたので、質疑の留保はなしと確認してよろしいですか。

(異議なしの声あり)

委員長 そのように確認します。

以上で認定第5号の質疑を終結いたします。

本日まで2日間質疑を行ってまいりましたが、市長に対する総括質疑はなしと確認してよろしいですか。

(異議なしの声あり)

委員長 確認いたしましたので、以上で全ての質疑を終結いたします。

これより休憩に入りますが、休憩中に書類審査を行っていただきます。なお、4月から6月の3か月の書類を用意しております。その他の月の書類審査を希望される方は、所管で準備いたしますので、お申出ください。

それでは、暫時休憩いたします。再開は10時15分といたします。

休 憩 10:06

再 開 10:17

委員長 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

書類審査

委員長 休憩中に書類審査をしていただきましたが、これに対する質疑はございますか。

(なしの声あり)

委員長 書類審査の質疑を終結いたします。

討論

委員長 これより討論に入ります。

討論の順番につきましては、委員会の初日に決定しているとおり、会派清新、新政会、会派みどり、公明党の順となります。

最初に、会派清新、水口委員。

水 口 会派清新を代表いたしまして、第2決算審査特別委員会に付託されました認定第2号から第8号までの特別会計並びに公営企業会計7件につきまして認定を可とする立場で討論いたします。

初めに、令和元年度は、行財政改革推進室を設置し、第1期財政健全化計画の最終年度から第2期財政健全化計画策定の年度として、職員一丸となり計画策定、健全経営に鋭意ご努力いただきました市理事者並びに職員の皆様に心より敬意を表します。

委員 長
本 間

以下、3点について意見を述べさせていただきます。

まず、公営住宅事業特別会計について、指定管理者制度が導入され3年目に当たり、昨日の質疑でも明らかになりましたが、指定管理者が特に高齢の入居者に対し、声かけなど見守り事業や一部の団地に独自の広報紙の配布など、入居者の利便性に配慮した創意工夫がなされており、敬意を表すると共に今後も引き続き入居者の利便性とさらなるサービス向上に努めていただきたいと思います。

2点目は、下水道事業会計について、社会資本整備総合交付金事業は交付金の交付率が減少傾向にありますが、計画的かつ効率的に設備更新するため、満額確保に向け引き続き最善の努力をされたい。

3点目は、病院事業会計について、第2期財政健全化計画と共に市立病院経営改善計画策定に当たり、さらに令和元年度より有限責任監査法人トーマツとコンサル契約を締結し、経営改善に努力をしておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により経営状況はますます混迷を極めております。受診控えなどにより2月と3月での大幅な減収により大変厳しい経営状況ですが、今後ともトーマツとの連携を深め、万全のコロナ対策、そして看護師の確保等、健全経営に向け、より一層努力されたい。

各会計におきましても新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況ですが、引き続き万全の体制で対策に臨まれますよう要望して討論いたします。

次に、新政会、本間委員。

それでは、新政会を代表いたしまして、第2決算審査特別委員会に付託されました認定第2号から第8号に対し、認定を可とする立場で討論いたします。

人口減少と少子高齢化に加えて新型コロナウイルス感染症対策など、未曾有の課題への対応を抱えながら市民サービスの維持向上に向けて効果的な予算執行に全力を尽くされた理事者並びに職員に心からの敬意を表します。

滝川市財政健全化計画に基づいた事務事業等の見直しは一定の成果を上げたものと思いますが、市立病院の経営改善も含めた第2期財政健全化計画は、コロナ禍によりかつてない逆風にさらされることとなるでしょう。

今後の国の財政出動は不透明であり、社会経済は深刻な停滞が予測され、豪雨などの災害により各地で過去最悪とも言える状況が続いています。ピークと言える市民の不安を解消し、安心して暮らせる地域づくりに向けて、職員においても組織においてもブレイクスルーが迫られる局面にさらされている認識に立たなければなりません。

病院事業会計について、地域の基幹病院としての使命の下、新型コロナウイルス感染症への対応など、市民の安心に向けて全力を尽くされた職員の皆さんに心より敬意と感謝を申し上げます。多くの公立病院では、医師及び看護師の不足や患者数の減少などにより収支が悪化する傾向にあると言われております。滝川市立病院においても、経費削減や診療単価増など経営改善に努められながらも、医業収益が医業費用を下回る状態から脱却できず、収支不足は増加を続けています。新型コロナウイルス感染症による患者数の減少が顕在化しており、病院事業を取り巻く経営環境にさらに厳しさを増すことが予測されることから、滝川市立病院経営改善計画に基づき、看護師の確保や病床の再開などを実現するなど、経営の安定化に向けた取組に全力を尽くされ、質の高い医療の維持向上を実現することを心から期待しております。

最後に、各会計共に令和元年度決算に基づきコロナ禍における難易度の高い今

委員長
山本

後の市政運営に全力で取り組まれることを希望し、賛成討論といたします。

次に、会派みどり、山本委員。

会派みどりを代表し、本委員会に付託されました認定第2号から認定第8号までの7件について、若干の意見を付して賛成の立場で討論を行います。

国民健康保険、介護保険及び後期高齢者の各会計共に、人口減少が続く中、収支バランスの取れた運営がなされ、その努力に敬意を表します。今後とも健全運営と未納未収金の減少に向けてさらなる取組を求めます。

土地区画整理事業特別会計については、事業完了に伴う土地の公売が始まったが、売却を促進し、早期の資金回収に努めていただきたいと思います。

病院事業会計については、再建計画実施中に新型コロナウイルスの影響で収支の悪化が増加する事態となった。今後も引き続き国などへ支援を求めつつ、一般会計繰出しが増加しないようさらなる経営改善に努力していただきたい。

委員長
副委員長

最後に、公明党、堀副委員長。

公明党を代表して、第2決算審査特別委員会に付託されました認定第2号から認定第8号までを全て可とする立場で討論いたします。

財政健全化に努力された理事者、職員の皆様、またコロナ禍において大変ご苦勞されたことに感謝と敬意を表します。

さて、自治体の運営において最も重要な視点は、職員の意識にあると思います。

その意識とは、3点あると思います。1つ、市民のためになるか、2つ、市のためになるか、3つ、自分のためになるか、この3つのためにを満たすために、どう職務に向かうかが大事だと思います。今後も大変厳しい財政が予定されますが、この3つの視点を踏まえた仕事に期待をし、賛成討論といたします。

委員長

以上で討論を終結いたします。

討論要旨につきましては、整理して9月16日までに事務局へ提出してください。

採決

委員長

これより

認定第2号 令和元年度滝川市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第3号 令和元年度滝川市公営住宅事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第4号 令和元年度滝川市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第5号 令和元年度滝川市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第6号 令和元年度滝川市土地区画整理事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第7号 令和元年度滝川市下水道事業会計決算の認定について

認定第8号 令和元年度滝川市病院事業会計決算の認定について

の7件を一括採決いたします。

本認定をいずれも可とすべきものと決することに異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

委員長

異議なしと認めます。

よって、本認定はいずれも可とすべきものと決しました。

お諮りいたします。委員長報告につきましては、正副委員長にご一任願えますか。

(異議なしの声あり)

委員長

そのように決定させていただきます。
以上で本委員会に付託されました事件の審査は全て終了いたしました。

挨拶

委員長
市長

この場合、市長から発言の申出がありますので、これを許したいと思います。
それでは、令和2年第2決算審査特別委員会閉会に当たりまして、委員長のお許しを得て一言ご挨拶申し上げる次第でございます。

渡邊委員長、堀副委員長はじめ委員各位におかれましては、本委員会に付託されました各議案に対しまして積極的にご議論、ご審査いただき、ただいまいずれも可としてご認定をいただきましたことに心から感謝を申し上げる次第でございます。

コロナ禍ということで、大変な事業会計が、今後見通せるわけでございます。その中においてもただいま付されました意見等を参考にしながら安定的な経営に向けましてさらに努力を重ねるつもりでございますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げたいと思います。

以上申し上げまして、決算審査特別委員会閉会に当たりましてのご挨拶といたします。大変ありがとうございました。

委員長

委員長退任に当たりまして一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

2日間にわたり委員の皆様には、5つの特別会計と2つの企業会計についてご審議いただきました。新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、今回の決算委員会は従来とは少し異なる形で実施したため、質疑書提出に向けた準備期間の確保をはじめ、委員の皆様もいろいろとお考えの部分があったものと思います。今後、総括が行われることとなっております。忌憚のないご意見をいただければと思っております。

結びになりますが、不慣れな進行のため、至らぬ点もあったと思いますが、ご協力をいただいたことに感謝を申し上げまして結びの言葉といたします。ありがとうございました。

以上で第2決算審査特別委員会を閉会いたします。

閉 会 10:31